

## 20回目の開催を迎える国内最大級の「危機管理」総合トレードショー

### 10月開催のRISCON TOKYO

### 能登半島地震等の災害を受け展示規模が急拡大

10月9日(水)から11日(金)の3日間、東京ビッグサイト西1・2ホールにて「危機管理産業展(RISCON TOKYO)2024」及び「テロ対策特殊装備展(SEECAT)24」が開催される。本年は元日に発生した能登半島地震などの自然災害をはじめ、相次ぐ事故・犯罪など、日常生活や社会経済活動に潜むさまざまなリスクが浮き彫りになっている。こうしたなか、今回で20回目の節目を迎えるRISCON TOKYOにかかる期待は大きい。出展申込の受付開始以降、多くの企業・団体から申込・問い合わせが事務局に寄せられており、展示ボリュームは大幅に増えることが見込まれる。本号では、両展の最新情報を伝えるとともに、新しい併催企画や今回の見どころなどを紹介する。

#### あらゆるシーンの危機管理を

#### 網羅する展示構成

RISCONは、2005年の初開催から数えて今回で20回目の開催を迎える。これまで「危機管理」の展示会の先駆けとして盤石の地位を築いてきた。この20年で発生した大災害や事件・事故、新型コロナウイルスなどに関して、展示会を通じて情報を発信してきた。「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」の主要3分野を展示の柱に、「危機管理」「ビジネス」という新たな産業の創出と業界の発展にも貢献してきた。

また、本年は主要3分野のほかでも時宜になつたキーワードを取り上げた「特別テーマ」エリアを設定するとともに、3分野を横断的にとらえた併催企画として「危機管理ドローンソリューション」、「危機管理衛星測位・位置情報活用ソリューション」を新たに企画。今回、これらのテーマや企画を打ち出すことで、いっそう内容の充実を図っている。

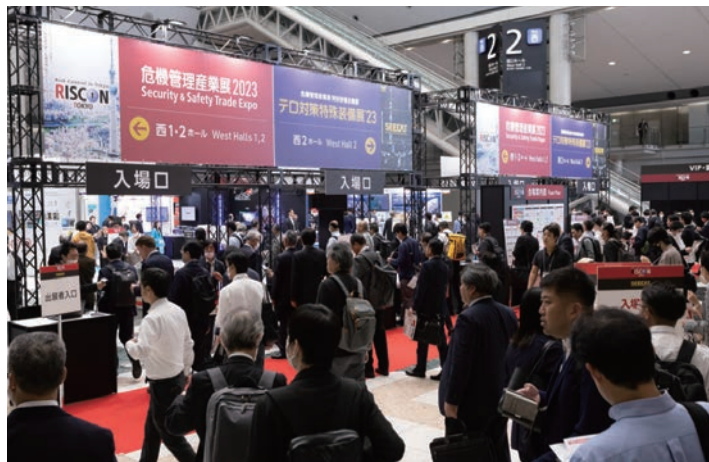
#### 防災・減災

#### 能登地震の教訓から 未来へ備える

この20年だけを振り返っても、度々大地震が発生してきた。新潟県中越地震、東日本大震災、熊本地震、そして、元日に発生した能登半島地震など、いずれも各地に大きな被害をもたらしてきた。こうした過去の大災害を教訓として、今後発生が予想される南海トラフ地震、首都直下地震には国民一体となった対策が必要だ。

RISCONの主要分野の中でも

大部分を占める「防災・減災」分野には、新たな技術を駆使し、災害から命を守り、生活・社会活動を継続させるための「備え」に関する様々な展示が予定され、注目度も高い。



#### 多様な災害対策が集結

東京都中小企業振興公社は、「安全・安心」をテーマとする製品・技術を開発している都内中小企業約30社を紹介する大規模なパビリオンの設置を予定している。4年ぶりの出展となるリンテック21は自動車の水害対策を大型ブースで提案。サポーターマークディングサービスは、水陸両用車をはじめとした災害時に活躍する各種モビリティを展示。ホープと浜口ウレタンは、水難救助用ボートなどの展示を予定している。コムテックやワールドウォークの最新のレスキュー機材、サカイ商事の騒音下や防護マスク着用時でも影響が少ない通信用マイクといった災害救助向けの製品などにも注目が集まりそ

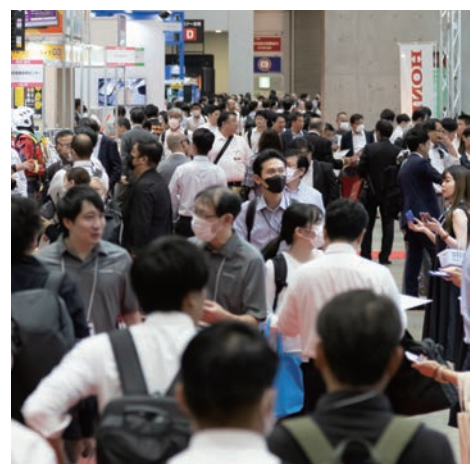
うだ。そのほか、災害時に強いLPG活用を提案するエルピーガス振興センター、非常用小型蓄電池の日本総合施設、IoTを活用した河川監視カメラの古野電気、フェーズフリーのカーポート・ラックを展示するサカセ化学工業など多数の出展者が前回に引き続き出展を決めている。

#### テーマ別の課題解決を提案

防災・減災分野の特別テーマには、昨今注目度の高い3つのテーマを設定。大規模地震の発生を見据えたテーマである「災害に強いまちづくり」には、コンクリート建造物の補修・補強塗料を提案するアーマライニングスや、止水板などアルミの特徴を生かした防災向けの新製品を展示するUACJが初出展する。

『防災備蓄品・避難所資機材』は能登半島地震でも災害関連死などの課題が浮き彫りになった重要なテーマ。地域、オフィス、個人で災害に備えるための備蓄品が集結する。軽量で容易に設置できるアルミ製間仕切りのナガエ、段ボール床や非常用トイレのシンブルプラス、コンパクトに圧縮した非常用毛布の足立織物、長期保存食の永谷園などの出展が決定。関連の展示企画として『避難所再現ゾーン』と『RISCON防災カフェ』にも製品を展示でき、ブース以外でのPRができるのも魅力のひとつ。(詳細は裏面に記載)

『防災DXソリューション』では、AI・IoT活用といった最新技術に注目が集まる。情報収集・可視化・予測システムのSpecitee、クラウド型防災・環境監視システムのイトラストなどが出展する。また、5年ぶりの出展となるトヨクモは災害時の安否確認システムを展示予定だ。



#### BCP・事業リスク対策

#### 多様化する事業リスク

#### 強い経営基盤の構築に

企業・自治体を取り巻く事業リスクは複雑化・多様化しており、BCPの見直しや各種リスクへの対応は官民問わず必須課題となっている。たとえば、2024年問題やAI・AIコルチェックの義務化など、様々な法改正に基づいて柔軟に対応しなければならぬ事業者は、常に最新の情報やソリューションを求めている。そうした企業の経営層や総務部門、危機管理部門がRISCONには多数来場する。

本年は、災害時に企業と自治体などが事業を継続するうえで不可欠な『緊急時の電気・水・エネルギー確保』『緊急時の通信確保・安否確認』を特別テーマとしてピックアップ。さらに、依然として事故が後を絶たない『工場の労働災害対策』も特別テーマとして設定し、ピンポイントなマッチングを実現する。

Arion CommunityはBCP・災害対策用の衛星通信を提案する。三和エナジーは昨年に引き続き大型ブースでの出展を決め、連日セミナー会場でのプレゼンも予定している。米国製の非常用力ガス発電機を展示するシーエープロントは前回から展示スペースを倍増した。工場の防災対策としてクレインの安全システムを提案する五合が初出展するほか、タクシアアプリでも有名なGOは交通事故の未然防止に役立つAードライブレコーダーの展示で初出展する。また、久しぶりの出展となるMS&ADインターリースク総研は、大型ブースを構えてあ

らゆる事業リスク対策を幅広く提案する。従業員のヘルスケア対策では、AIを活用した体調不良リスク予測システムを展示するメッツなどもおり、本分野も多彩な展示内容となっている。

#### セキュリティ

日常を脅かす卑劣な犯罪や突然の事故、企業の情報資産を狙ったサイバー攻撃は後を絶たず、対策が急務だ。今年のセキュリティ分野では、『パブリックセーフティ』『サイバーセキュリティ』『セキュリティDX』を特別テーマとして設定。テーマに沿った最新のソリューションが集結する。

i・PROは2年ぶりの出展で展示スペースを増加。AIカメラソリューションや北米警察で実績のあるウェアラブルカメラなどを披露する。過酷な環境に強い監視カメラを展示予定のミカミも7年ぶりの参加を決めたほか、超高度センサー搭載力メラや画像鮮明化ソリューションのEIZO、幅広いセキュリティ製品を展示する阪神交通、事故・犯罪現場の現状をデジタルで記録する3Dスキャナーのファロージャパン、トイレ内異常検知システムの三協エアテックが昨年に続き出展する。車上用360度カメラのTSP、クラウド型監視カメラのクリューシステムズなど初出展組も多彩だ。今年からセキュリティ分野に新設された『サイバーセキュリティ』には、特典としてプレゼンテーション枠がセットとなっており、見せて・聴かせて・商談ができる限定プランが用意されている。今年、総務省は地方自治体にサイバー攻撃に対処するための基本方針の公表を義務付け、この閣議決定がなされた。RISCONには、自治体の来場参加が多いことから商機とにらみ、例年以上にサイバーセキュリティのシステムベンダーの勢いが強い。ランサムウェア対策のTwoFive、幅広いセキュリティソリューションを取り扱うディアイティが既に出展を決めたほか、国産のセキュリティソフトや海外メーカーなど検討企業からの問い合わせが多数寄せられている。

# 先端技術を防災、BCP・事業リスク、セキュリティに

## 『衛星測位・位置情報』、『ドローン活用』 主要3分野を横断的にとらえた注目の併催企画

能登半島地震では、最新技術を活用した状況把握や救助支援が行われた。衛星データの解析により4m近い地盤隆起や半島全体での地殻変動を早期に捉え、ドローンによるセンシングや映像で被災状況を把握。行方不明者捜索や物資を輸送するなど活躍の場は拡大している。一方でこうした技術は労働安全分野やセキュリティ分野においても広がり、その普及に期待がかかっている。

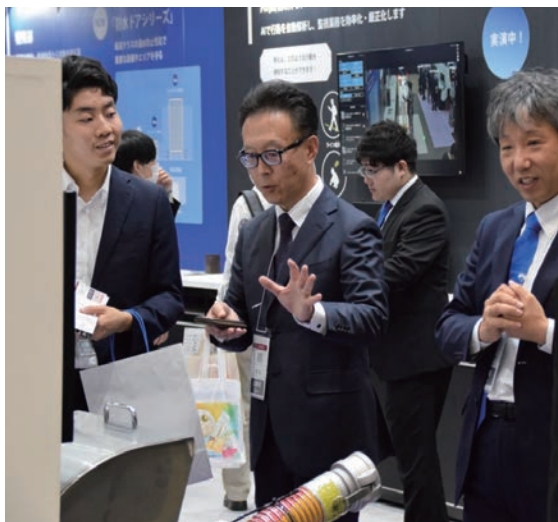
今年のRISCONでは、昨年に引き続きドローン活用を提案する『危機管理 ドローンソリューション』に加え、新たに『危機管理 衛星測位・位置情報活用ソリューション』を併催企画として設置。あらたなトピックエリアの導入によりさらなる内容の拡充とマッチング機会の創出を支援していく。

### NEW! 衛星測位・位置情報 活用ソリューション

#### ロケーションビジネスを 危機管理の視点で提案

測位衛星やインドアマッピング技術から得られる位置情報のデータ活用は、防災分野を筆頭に、ドローン等の無人機の運用、人流解析、インフラ点検、安全保障分野にまで広がり、いまや大きな社会基盤だ。この位置情報技術を活用したソリューションはあらゆる場面での応用展開が日々模索されていて、システムベンダーもその開発に余念がない。「従来、防災分野での活用しか想定していなかったが、新たな応用アイデアなど、思わぬ出会いからビジネスが広がるのも展示会の魅力」（衛星通信サービス会社）。現在、多数の企業が出展に向けた調整を行っていて、新たな情報発信に期待が寄せられる。

また、同分野に関連したセミナーも連日開講予定。能登半島地震等での活用事例など業界の有識者によるここでしか聞けない最新情報に注目だ。



### 危機管理ドローン ソリューション

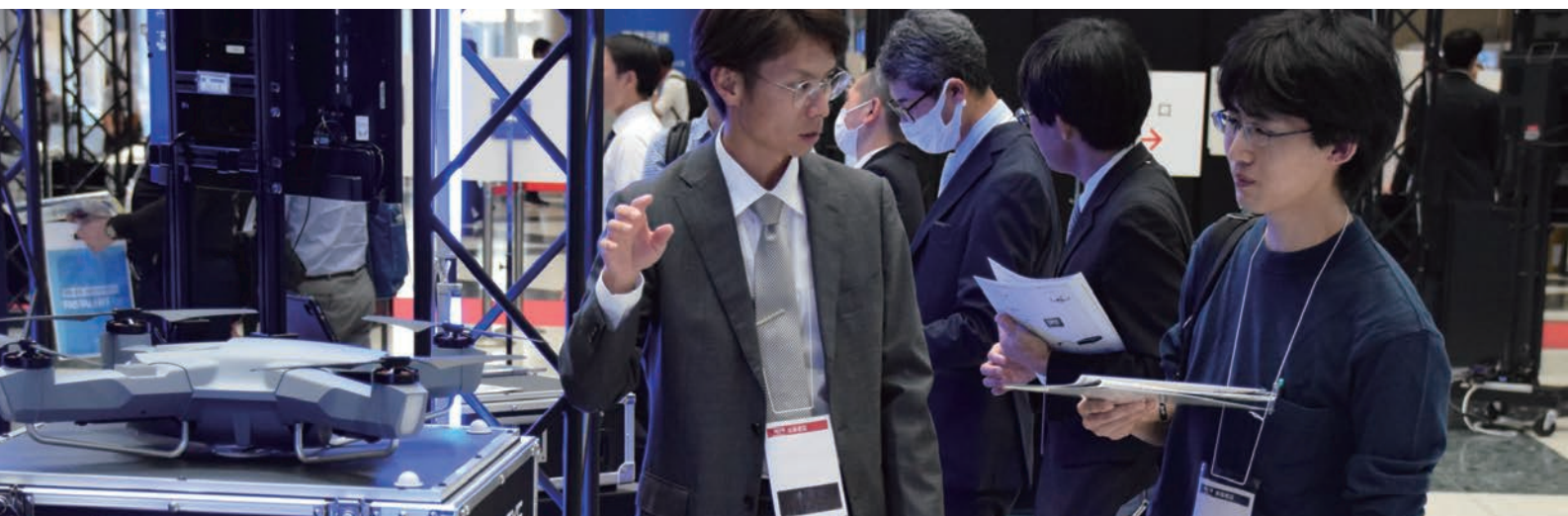
#### 法整備進み普及・活用に弾み 様々な場面での活躍に期待

有人地帯での目視外飛行「レベル4」が解禁されて一年半余りが経過。ドローンの活用シーンはますます拡大の一途だ。昨年末には、物資輸送やインフラ点検業務等の事業化促進を目的に「レベル3.5」が新設され、さらに弾みがついた。年頭に発生した能登半島地震における活躍は、前述の通りで復旧・復興の一助を担っている。

あるシンクタンクによると、2023年度における日本国内のドローンビジネスの市場規模は、3854億円で前年度比23.9%増加。2024年度には前年度比21.5%増の4684億円に拡大、2028年度には現在の2倍の9054億円に達すると見込まれている。

今後の市場拡大を商機と捉える企業からの出展申込・問い合わせが相次いでおり、展示規模の拡大が見込まれている。能登半島地震でも活躍した世界最小クラスの小型ドローンを展示する「Liberaware」、遭難者捜索に活用できるドローン搭載型レーダーのサクラテック、水上バイクの遠隔操作を可能にした水上ドローンを提案するドローンステーション、新たに創設したドローン減災士の普及を目指すT&Tといった関連企業が続々と出展を決めている。ドローンを活用した災害対策を紹介するエアロセンスなど、継続出展組も積極参加の姿勢だ。

「危機管理実演・体験コーナー」（詳細は後述）での飛行実演も可能。ブース展示と実演により多角的なPRを可能としている。



### 併催企画限定 特別プラン

#### ブース展示+プレゼンで 出展効果アップ

併催企画の『危機管理衛星測位・位置情報活用ソリューション』『危機管理ドローンソリューション』には出展者プレゼンテーション枠が無料でセットになった特別プランを用意している。ブース展示だけでなく、特設セミナーステージで展示ソリューションの活用事例や製品紹介などを「見せて、聴かせて、商談できる」プランとして毎回好評。

また自社プレゼンテーションの聴講者リストは会期後に展示会事務局より提供される。自社の製品に関心がある有望顧客のリードを獲得できるのも出展企業にとっては大きな魅力のひとつだ。

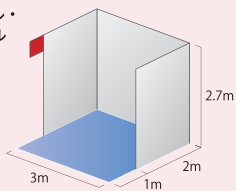
## ブース展示とプレゼンテーションの相乗効果で確かな出展成果を実感!

### 併催企画限定特別プラン

#### ①出展ブース

9m<sup>2</sup>/小間(間口3m×奥行3m)

- サイドパネル・バックパネル
- 小間番号板



#### ②出展者プレゼンテーション

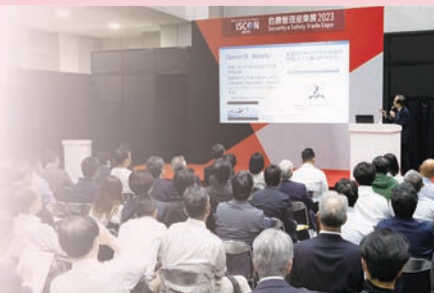
■会場: 会場内特設ステージ

または特設ルーム

■時間: 45分または60分

■収容予定数: 100名程度(予定)

※プレゼンテーション会場をご選択いただけます。  
※講演実施枠は希望を受け付けますが、重複があった場合、事務局にて調整を行います。  
※小間数に関わらず1社・1セッションとなります。



### 併催企画限定

## 初出展者専用

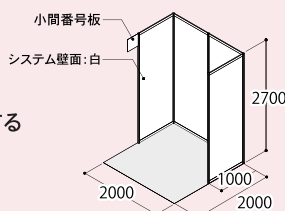
### 主催者特別プラン

出展料金: 217,800円(税込)

4m<sup>2</sup>/小間(間口2m×奥行2m)

「危機管理衛星測位・位置情報活用ソリューション」  
「危機管理ドローンソリューション」のいずれかへ出展する  
初出展者限定の特別プランを設定します。

※過去にRISCON、SEECATに出展実績がある企業はご利用できません。



### 初出展者専用の 主催者特別プラン

さらに、併催企画の『危機管理衛星測位・位置情報活用ソリューション』『危機管理ドローンソリューション』では、RISCONへの初出展となる出展者は、専用の主催者特別プランを選択することも可能だ。出展者プレゼンテーションの特典はそのままに展示スペースをコンパクトにした出展プランで、コストを抑えて出展できる。展示でブース面積をあまり必要としない場合やベンチャー企業などからは人気のプランとなっている。

# 多彩な企画展示やセミナー 魅力ある情報発信

## 企画展示

出展効果アップにつながる  
参加無料の企画展示が自白押し

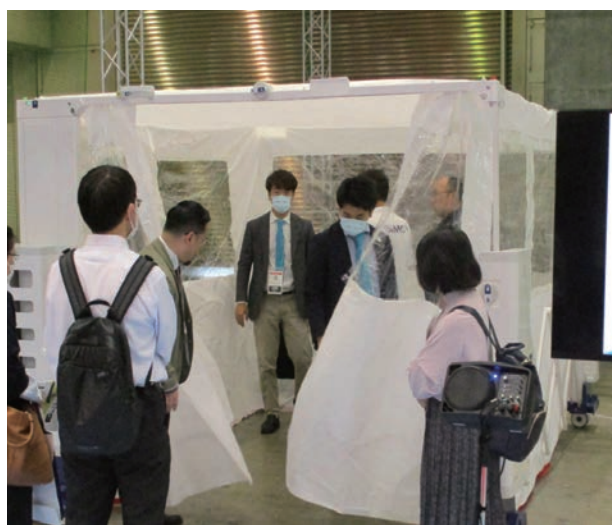
RISCONでは、出展者と来場者のマッチング強化や来場誘致のための仕掛けづくりとして、毎回多彩な企画を実施している。その中には出展者が無料でエントリーできる企画もあり、ブース以外でのPR機会を提供しているのも魅力のひとつ。

本年は、元日の能登半島地震発生をうけて、その被害状況や復旧・復興に関する情報をパネルや映像で展示するとともに、関連する2つの企画展示「RISCON防災カフェ」「避難所再現ゾーン」を一体的に展示することで、災害時の状況や災害食、避難所資機材を体験・体感できる空間を作り、商談に結びつくスキームをつくる。

「RISCON防災カフェ」は、災害食や保存食を取り扱う出展者が参加対象。主催者側にて展示場内にカフェスペースを設け、来場者には企画に参加する出展者の製品を試食・試飲してもらうことができる。

「避難所再現ゾーン」は避難所に関する資機材を取り扱う出展者が対象。テント、敷物、ポータブルバッテリー、非常用トイレといった実物の他、ソリューションのポスター展示も可能。ゾーンでの展示を見学して関心を持った来場者を、自社ブースへ誘導するのも効果的だ。

毎回好評の「危機管理 実演・体験コーナー」は会場内に設置される大型実演ス



ペースを使い、自社ブース内では難しいダイナミックな実演が可能だ。過去の参加企業は、ロボットやドローンを使った実演のほか、デバイスの装着体験、テントや簡易トイレの設置体験、VRシミュレーター体験、自社製品での不審者拘束デモンストレーションなど、広いスペースを活用して各社工夫を凝らした実演を実施している。自社ブースへの誘導のきっかけとなるため毎回人気の企画だ。



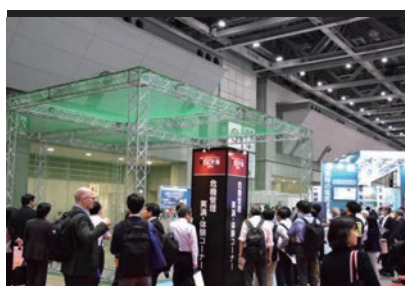
## スペシャルカンファレンスほか 多彩なセミナープログラム

昨年、のべ5035名が聴講したセミナーは、全セッション聴講無料。その年の注目テーマや時流に沿った内容で業界の有識者が最新情報を発信することで、目的意識の高い来場者の誘致につながる。開催初日を彩るスペシャルカンファレンスでは、著名人や有識者による対談・シンポジウムなどを予定しており、3日間で50セッションを超えるセミナーが公開される。セミナーの詳細は公式サイトにて8月より順次公開する。

## 全出展者がエントリー無料の企画展示でブース外でもPRが可能 参加募集中!

### 危機管理実演・体験コーナー

展示会場内に出展者専用の実演スペースを設置。自社ブースでは実現できない広いスペースを存分に使ったデモンストレーションが可能となりますので、ぜひご利用ください。ロボットの実演、VR・AI活用提案、ウェアラブル機器体験、保安用品の装着体験などの実演が可能。出展者の参加を広く募集します。新製品発表会にも活用可能。メディアの注目も抜群です。



- 募集内容：「防災・減災」「BCP・事業リスク対策」「セキュリティ」に関わる製品・機器の実演例
- 危機管理分野におけるロボットやドローンの活用提案
  - 危機管理分野におけるAI技術やVR技術の実演
  - 従業員のヘルスケア対策・業務効率化の実演
  - 車両・バイク・パーソナルモビリティなどの活用提案
  - 労働安全に関する資機材・サービスなどの実演・装着体験ほか

実演時間：各社1枠30分(準備から撤去までを含む)

### 避難所再現ゾーン

実際に支援物資として能登半島地震の被災地で活躍した製品をはじめ、避難所に関する資機材を集中展示します。小間番号・出展者名が記載された製品紹介パネルが提供されるのでブースへの誘導にも効果的です。



募集内容：災害トイレ、避難所用敷物・間仕切り、簡易ベッド、ポータブルバッテリー、浄水器、防犯カメラ、安否確認システム、災害情報発信 など、防災備蓄品や避難所で使用できる資機材・システム・サービス

### RISCON 防災カフェ

試食・試飲を提供できるカフェスペースを会場内に設置。

災害時の備えの基本である備蓄食料を実際に試してもらうことで、来場者へ強く訴求できます。



募集内容：長期保存食、レトルト食品、インスタント食品、缶詰、備蓄水・飲料などの災害食・保存食の試食及び試飲

※参加上限あり、先着順

### 能登半島地震関連展示

#### RISCON 防災カフェ・避難所再現ゾーンと併設

能登半島地震の被害状況、復旧・復興状況をパネルや写真、映像で展示し、防災について学び、次なる自然災害への備えを啓発する展示ゾーンを設置します。



出展にご関心がありましたら今すぐ事務局までご連絡ください。

RISCON TOKYO / SEECAT 事務局 ☎03-3503-7641 ✉ofc@kikikani.biz / ofc@seecat.biz

RISCON TOKYO 特別併催企画展

# SEECAT テロ対策特殊装備展'24

Special Equipment Exhibition & Conference for Anti-Terrorism NEWS Vol.1

10.9(水)10.11(金) 東京ビッグサイト 西2ホール

発行元：SEECAT事務局  
 〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2  
 大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内  
 Tel. 03-3503-7641 Fax. 03-3503-7620  
 E-Mail ofc@seecat.biz  
[www.seecat.biz](http://www.seecat.biz)

## 緊迫する世界情勢 国内唯一の「テロ対策」専門展に注目集まる

### 不安定な国際情勢に国内の対策は待ったなし SEECAT 出展申込が堅調

いまだ終局の見通せないウクライナ情勢に加え、一気に緊張が高まった中東情勢、さらには台湾有事への懸念等、世界情勢の混迷が続く。日本国内においても大阪・関西万博や東京2025世界陸上といった不特定多数の人々が集まる大規模イベントを翌年に控え、公共交通機関のセキュリティや要人警護、重要インフラへのサイバー攻撃対応など、テロ行為を未然に防ぐための対策は急務だ。国民保護 安全保障分野にはこれまで以上に行政や自治体治安関係者からの強い関心が寄せられている。

国内唯一のテロ対策展「SEECAT」には、こうした状況をビジネスチャンスととらえ、国内外の関連企業が次々と出展を決めている。本号にて各出展者の動向やトピックを紹介していく。

#### 最新鋭のテロ対策資材が集結 昨年を上回る勢い

SEECATは、警察・消防・自衛隊などの治安関係者をはじめ、政府・自治体、重要エネルギー施設や交通インフラ、大規模商業施設等の危機管理関係者、施設管理者に会場を限定したクローズドショー。その展示会の特性から、出展者、来場者共に高い満足度とリピート率を得ている点が大きな特長だ。特に来場者からは「国内外の最新のテロ対策資材を直接見ることが出来る」「他では聴けないセミナープログラムが充実している」「治安関係者といった声が多く。前回来場者のリピート意向は驚異の100%となっている」。



出展メーカーからの評価も上々だ。「日頃の接触が難しいVIPとじっくり商談ができる」「国内外のトップメーカーが出展しているので自社も参加しないわけにはいかない」「(テロ対策資材メーカー)。さらに「海外メーカーから日本メーカー

トでの販促拡大のためにSEECATに出展したい」との意向が強く、日本の商社や代理店が展示スペースを大幅に増やす傾向が今年は特に顕著だ。

2024年度の防衛予算は約8兆円とも言われている。政府が進める「防衛力の抜本的強化」の2年目。特に海外メーカーからするとこのマーケットは魅力的だ。先述のとおり国内企業だけでなく、海外メーカー及び代理店からの新規出展が目立つ。ARCO Japanはシンガポール製の爆発物検知器を出展。国際警備は米国製の革新的な遠隔拘束デバイス提案。イギリス製のGPSシミュレーターVBOX JAPAN、フランス製のオンプレミス型AI翻訳ソリューションを提案するシステムランジヤパンはそれぞれ初出展を決めた。安全保障分野では先進している海外からの最新資材に注目が集まる。

監視・警戒・解析システムでは、ボッシュセキュリティシステムズが最新のAI映像解析カメラで出展。三井物産エアロスペースは重要防護施設向けセキュリティ製品を提案する。特殊装備の分野では、ネット発射弾等の多様な装備品を出展する日本工機、次世代サーチライトのレイギアーズ、セキュリティは夜間監視装置等を展示する。イオンインターナショナルはカナダ製の不審物処理用ロボットで出展を決めた。

侵入防止の分野では、ウッズがシンガポール製のフェンス警備システムを提案、オプテックスは警備・警戒用セキュリティ機器の実機デモンストレーションを実施する予定だ。このほか、超小型衛星通信アンテナ

や衛星中継車のエーティコミュニケーションズ、米国製スマートグラスのビュージックスジャパン、爆発物検出器のRSダイナミックスも継続での出展を予定している。近年注目が集まっているEMP(電磁パルス)対策ではテクノサイエンスシステムズ、日本オートマテック・コントロールが今年もPRを予定している。



#### 今後の世界情勢を見据え テーマ「国民保護・安全保障」関連も充実

技術の進歩により、くしくもテロをはじめとした有事においても攻撃の精密性や複雑性が増し、それが国際的な緊張を一層高める。国や自治体には、こうした変化にも対応して国民保護と安全保障に基づいたさらなる対策が求められる。SEECATでは出展者

者と来場者の確実なマッチングを実現するためのテーマ展示ゾーンを設定。今回は「国民保護・安全保障」を大枠に据え、「ロボット/ドローン活用」「対策」「CBRNEテロ対策」「港湾警戒・水際対策」「個人装備品及び開発技術」「デュアルユース先進技術」「シエルター」の6つの分野を構成。有事への備えを集中的に情報発信する。

護身用品の銀商は個人装備品として防弾、防刃製品を出展。CBRNEテロ対策として検知機を出展するジャパンマシナリーは、5年ぶりに復活出展。柴田科学は神経剤を検知可能なデバイスを初披露。東北エンタープライズはアメリカ製四足歩行ロボットデモンストレーションを実施。北朝鮮の相次ぐミサイル発射実験をはじめとした国際情勢への不安が高まるなか、東陽テクニカの水際対策ソリューションにも関心が集まる。このほか、海外メーカーの輸入商社が個人装備品で大々的なPRを目論み、日本市場への進出を狙っている。

#### 重要インフラ向けに特化 サイバーフィジカルセキュリティ

いまやIoTが社会基盤となるなか、サイバー空間も大きな主戦場となる。特に重要インフラにおいては、機能不全に陥った際の影響は計り知れない。政府は情報通信、金融、電力、ガス、医療などの重要インフラ14業種におけるサイバー攻撃への体制強化とサプライチェーンで使用する機器の安全確保について要請し、官民における防衛態勢を強化している。

SEECATでは重要インフラ向け「サイバー・フィジカル・セキュリティ」を特別テーマとして打ち出している。様々な高性能セキュリティ製品を出展する日本通信エレクトロニクスは展示スペースを拡大しての出展。画像鮮明化技術を提案するロジック・アンド・デザインは今年も出展を決めた。攻撃者目線でのサイバーセキュリティ対策を提案するリチエルカセキュリティや、サイバーセキュリティソリューションを幅広く展開するディアイティが初出展。出展検討中の企業もまだ多数あり、5月末の出展申込締切までに出展者はさらに大きく増えそうだ。

Risk Control in Tokyo

# RISCON TOKYO

危機管理産業展2024  
Security & Safety Trade Expo

自然災害に備える

### 防災・減災

特別テーマ

- 災害に強いまちづくり
- 防災備蓄品・避難所資機材
- 防災DXソリューション

あらゆるリスクを考える

### BCP・事業リスク対策

特別テーマ

- 緊急時の電気・水・エネルギー確保
- 緊急時の通信確保・安否確認
- 工場の労働災害対策

犯罪・事故から守る

### セキュリティ

特別テーマ

- パブリックセーフティ
- サイバーセキュリティ
- セキュリティDX(ロボット/AI/デジタル活用)

国内唯一の「テロ対策」専門展示会

# SEECAT

Special Equipment Exhibition & Conference for Anti-Terrorism

危機管理産業展 特別併催企画展

## テロ対策特殊装備展'24

「主要3分野」を横断的に提案する 併催企画

NEW 危機管理 衛星測位・位置情報活用ソリューション

危機管理 ドローンソリューション